



兵協連だより

HYOGO CONSUMER'S CO-OPERATIVE UNION

2014 **3**



フォーラムの講評をされる消費者庁 阿南 久 長官



分科会では、兵庫県立大学 村上りさ氏が「ひょうごの消費者市民社会を大学生が創造する取組み」と題し、学生の消費者力アップについての報告を行いました。

2月12日(水)、奈良県文化会館（奈良県奈良市）において開催された「平成25年度近畿ブロック地方消費者グループ・フォーラム～広げよう連携の輪！つくろう消費者市民社会！～」に、兵庫県生協連「生活問題研究会」メンバーと事務局あわせて7名が参加。地域で活躍する消費者問題に取り組む団体・グループが情報交換や意見交流を行い、167人が集いました。（関連ページP.8）



ひまわり医療生活協同組合
専務理事

徳田 幸博
(とくだ・ゆきひろ)

安心して働き続けられる 職場を

ある介護人材養成企業よりアンケートがきた。設問の中に「職員採用に掛けている月間費用は」という問いがあり、その選択肢の最低が「月平均10万円未満」。年間100万円にもなる。そんなに費用を掛けても事業所の約7割は、職員不足と答えている。私のところでも、よい人材を得るのに頭を悩ませている。

ところで、総務省の発表によると、1月末の失業率は3・7%で、有効求人倍率は1・03倍に改善し、6年2カ月ぶりに「人手不足」の状態という。ただし、正社員はこの1年間で63万人減、非正規社員は144万人増で全労働者の38・2%にのぼる。つまり、正社員を非正規社員に置き換え、その結果労働者数が増えたのだ。安倍政権は、さらに「失業なき雇用の流動化」を掲げ労働者派遣法改正をしようとしている。「基本は正規雇用。派遣は例外」の原則を棄てるというのだ。今は「専門26業務」を除き、企業が派遣社員を使える期間は3年が上限である。それをどんな仕事でも労働者を3年ごとに替えればずっと派遣社員でいいことになる。ますます不安定な非正規社員が

増える。

私たちの医療生協では、医療や介護などさまざまな職種の職員が、フルタイム勤務から週1日勤務まで多様な働き方をしている。正職員、臨時職員、アルバイト、嘱託などと呼称していた。名前は処遇だけではなく意識も規定する。アルバイト職員が「私らはアルバイトだから、そんな仕事は正規職員がやればいい」ということもあった。医療生協で働いているという気持ちも育ちにくかった。よい職員を得たいのは勿論だが、定着して育って欲しい。なによりも、「地域で生活と暮らし、健康をみんなで支えあう医療生協をめざそう」という思いを、職員みんなで共有し仕事をした。話し合いの中から、職員は原則みんな正職員、雇用期限なし、均等待遇とすることを決めた。フルタイム勤務者も短時間勤務者も、みんな正規職員だ。臨時職員、アルバイトの名称もいつのまにか消えた。

組合員にとっても、職員にとっても安心して働き続けられる職場をめざしていきたい。

CONTENTS

- | | |
|--|--|
| 2. 想点 | 5. 単協通信 神戸市民生活協同組合／
近畿労働兵庫兵庫地区統括本部 |
| 3. 第5回理事会 報告／第12回税務・経理講習会 報告 | 6. 協同組合のかけ橋 |
| 4. 東日本大震災 震災支援の取り組み報告
生活クラブ生活協同組合都市生活／
神戸医療生活協同組合／尼崎医療生活協同組合
阪神医療生活協同組合 | 7. 兵庫県のページ |
| | 8. 「兵協連だより」通信員・広報担当者研修会のご案内／
「地方消費者グループ・フォーラム in 奈良」報告
県連日誌／編集後記 |

2013年度 兵庫県生協連 第5回理事会報告

I. 開催日時 2014年2月3日(月) 午後2時~3時37分

II. 開催会場 兵庫県民会館 12階「1201」

III. 出席者

本田会長理事、寺尾副会長理事、三宅専務理事、板崎、高橋、福島、新保伴、大沼、酒井、林田、眞田（以上、理事）、藤田、金丸、木田（以上、監事）

〈協議事項〉

- (1) 近畿労働金庫「つなぎ融資」(案)について
- (2) 会費規約改定案承認の件
- (3) 兵協連 2013年度決算見通しと2014年度予算案について
- (4) 兵協連 2013年度活動報告および2014年度活動計画(案)について
- (5) 顧問にかかわる定款変更の件
- (6) 生協対策資金に関する規約廃止の件
- (7) 2014年度第64回通常総会の手順スケジュール(案)について

〈報告事項〉

- (1) 兵協連からの兵庫県県民生活審議会委員就任について
- (2) 「会員生協からの概況報告」各出席理事・監事より報告
- (3) 前理事会～2月上旬までの兵協連行事・活動報告

2013年度「兵庫県生協連・第12回税務・経理講習会」を開催

2月18日(火)・19日(水)の2日間にわたり、今年で12回目となる「税務・経理講習会」を県民会館にて開催。6会員生協（4関連会社）の役職員17名が参加しました。この講習会では、税理士・元日本生協連 会員支援本部 江藤俊哉 氏、MMコンサルティング 三宅充 氏、西宮市職員生協 統括部長 宮田正樹 氏を講師に迎え、午前中の全体講義に続き、午後からは「初級クラス」、「中上級・関連子会社クラス」の2クラスに分かれて講習を行いました。



「税制改正」についての全体講義



中上級・関連子会社クラス



初級クラス

まず全体講義では、江藤氏より「税制改正、消費税率アップの実務対応」について、わかりやすく解説をいただきました。続いて、三宅氏より「税務調査の対応と心構え」と題して、過去の事例を交えながら注意すべき事項を中心にお話をいただきました。そして1日目の午後と2日目にかけては、「初級クラス」「中上級・関連子会社クラス」に分かれて講習。初級クラスでは、「税務・経理・財務管理の基本」を中心に、身近な設例に基づく税務申告書の書き方など税務の基礎を徹底的に学習しました。また、中上級・関連子会社クラスでは、初日から設例に基づき税務申告書を作成。少人数を活かしてマン・ツー・マンで指導をしながら、消費税の申告の仕方や税務調査における諸問題の研究などを研修しました。参加者からは「会計と税務の考え方の違いを知ることができた」「税制改正が、経済・政治と結びついていることを学び、より興味が持てました」「申告書作成について丁寧に解説いただき、機械的に処理していたこと（理屈）が理解できました」などの感想が寄せられ、実践に役立つ講習会となりました。

～「忘れない」。復興への歩みとともに…～

東日本大震災から3年。いまだ復興の途上にある被災地とともに、兵庫県生協連の会員生協をはじめ全国の生協の仲間が、現在も支援活動に取り組んでいます。時を刻み、防災への教訓を次世代に継承するとともに、復興への歩みに寄り添い息の長い支援が続けられています。

生活クラブ生活協同組合都市生活
若者たちが、見て、感じた
被災地の「今」
～中高生被災地スタディツアー～

2013年8月20～22日に「中高生被災地スタディツアー」を実施しました。組合員家族の中高生5人が宮城県・福島県を訪れました。

東日本大震災の発生から2年半が経過し、報道で被災地を知る機会は減りました。阪神・淡路大震災を経験した関西ですが、震災後に生まれた現在の中高生に被災経験はありません。これからの社会を担っていく若者に、自分の目で東北を見て、現地で生きる人々に会い、被災地の今を感じてほしい。また被災地のためにできることを考えるきっかけにしてほしい。そんな思いからこの企画を進めました。



南三陸町の防災庁舎

ツアアのコースは、生活クラブ連合会の復興支援活動で連携している方々への訪問を中心に組みました。東日本大震災を考えるうえで、福島第一原発事故の影響は避けられません。訪問地を検討するうえで放射線量を考慮しました。また原発事故を考える機会として、2011年のリフレッシュツアー参加者家族であり、福島県内で小学校の教頭先生を務めていらつしやる佐藤さんに、教育現場での対応をお話いただきました。
(通信員 紺本直)

神戸医療生活協同組合
3・11から3年、
継続的支援を

《2013年度の活動実績》
東日本大震災の発生から、これまで様々な被災地支援活動を実施してきました。2013年度には一般社団法人ING(イング)を立ち上げ、INGを中心に活動を行ってきました。

- ・宮城県山元町支援ボランティア
- ・福島県飯館村のわんにゃん支援、富岡町などの被災地視察
- ・浜通り医療生協が行った被災地での健康まつりへの参加
- ・12月までで計8回、総勢43名の支援活動を実施
- ・事業所としては被災地避難者の相談と健康診断を実施

《2014年度の活動について》
福島県の汚染水問題をはじめ、復興は遅々として進んでいません。それに対し、ニュース報道や現地ボランティアの数は目に見えて減ってきています。引き続き、継続的支援活動を行う方針です。

《2014年度の活動予定》
宮城県(山元町)、福島県(被災地)での仮設住宅健康チェック・コミュニケーションの場の提供、被災地視察、わんにゃん支援参加、「女川原発」の見学など
(通信員 山崎修平)



2013年8月24日 わんにゃん支援の様子

尼崎医療生活協同組合
各生協との協力の力で
新たな支援の輪が広がる

震災3年目に入った2013年度。宮城県沿岸部(おもに山元町)で、いっそうの被災地支援活動をすすめるため、現地に開設された「みやぎ虹の架け橋復興支援センター」の常駐者として、9月から12月にかけて滞在しました。現地では特に若い人の流出が目立ち、住宅再建は困難を極め、草刈りや溝掃除などの生活環境改善も切実な課題になっています。

兵庫県生協連の仲間のみなさんは、秋には毎月支援隊を組んで駆けつけて下さり、一緒に力を合わせて現地の方々の要望に応える活動を多種にわたります。特に10月5日には、JR常磐線旧山下駅前「やまもと花釜まつり」をひらき、全国の仲間との支援にも支えられ約500人の参加で成功させ、復興への力強い決意を固めました。



南三陸町の防災庁舎

復興への道のりは、まだまだ長く続きますが、今後とも手を携えて、力を尽くしていきたいと思えます。
(通信員 山口寛)

阪神医療生活協同組合
みんなが参加できる東北を
忘れない支援～小米募金～

東日本大震災から2年が過ぎ、まわりの支援活動も少なくなってきたころ、組合員さんからの提案で始まった小米募金！阪神医療生協では毎週木曜日、淡路島の野菜販売を行っています。その生産者から、新米を精米した後に小さなお米が出てくるので、東北支援などに使えないかと提案がありました。さて、どのようなかたちで、募金に役立てるか検討し、おかげやおじゃにするといよいよ、呼びかけチラシをポケットテッシュに入れ、一袋200gを50円で販売しています。この売り上げは一万円ぐらいたまると、兵庫県の旬の野菜やお米・果物を、気仙沼の仮設住宅や介護施設、保育園などに送っています。

地域活動の中で、生まれた小米募金は、生産者の方や、組合員と職員の協力があって取り組むことが出来ています。ご協力頂いた皆さん、本当にありがとうございます。これからも、コツコツ継続していきます。

私たち阪神医療生協は、毎年3月11日にJR尼崎駅頭で街頭募金活動を行い、「気仙沼まちづくり応援寄付金」として送金しています。

今年も16時より1時間行いますのでお近くの方のご参加もお待ちしております。
(通信員 松田茂之)



「須磨パティオ専門店」で事業を紹介

1月30日(木)、31日(金)、神戸市須磨区の須磨パティオ専門店にて、共済相談会を実施しました。須磨パティオ専門店には神戸市営地下鉄名谷駅前であり、約100店舗の専門店からなる大規模なショッピングセンターです。神戸市民生協が共済相談会を開催するのは初めての試みとなります。

当日は交通安全協会からお借りした交通安全啓発ビデオを上映し、また、交通事故防止のための「反射ステッカー」を配布し、市民の方々に交通安全意識を高めていただく大切さをお伝えしました。その後、神戸市民生協の医療共済・火災共済・交通災害共済・子ども共済を紹介した総合パンフレットやティッシュを配布したほか、簡単なアンケートに答えていただいた方にはミニプレゼントをお渡しするなど、熱心な広報活動を行いました。館内のセンターコートで開かれたこともあり、子どもさんからも年配の方まで幅広い年齢層の方々に訪れていただくことができました。

した。

当日は市民の方々から「自転車事故の保障がよいですね」「相談がわかりやすく、優しかった」とのお声をいただきました。また、あらかじめご案内をお送りしていた近隣在住の組合員の方も、お申し込みやご相談にお見えになりました。当組合は事務所が中央区にしかないため、他の地域の組合員の方とはなかなかお会いする機会も少ないのが現状です。こういった機会を通じてもっと様々な地域の組合員の方と触れ合えるような広報活動を継続していきたいと思えます。



交通安全の大切さもPR

(通信員 鹿田裕子)

「もとまちハートミュージアム2014」を開催します

今年も4月4日(金)～4月8日(火)にかけて「もとまちハートミュージアム2014」を開催します。「もとまちハートミュージアム」では、障がいがある人々の日常の活動や作品を広く市井の場である商店街に披露する場を創り、障がいがある人もない人も、高齢者も子どもも当たり前に関わる福祉コミュニティの形成を目指して、様々なイベントを開催しています。あわせて、東日本大震災

復興支援として震災で被災した作業所の製品を販売し、被災地へ支援を届けるイベントも実施しています。近畿労働金庫兵庫地区統括本部は実行委員として参画しており、現在開催に向け準備を進めています。今回も親子で楽しめる様々な企画を用意しています。多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。

(通信員 森下晃司)

- 開催期間：2014年4月4日(金)～4月8日(火)
 開催場所：神戸元町商店街
- 内容：
 ◆障がい者アート作品展(ドギドギ展～風景画～)
 日時：4月4日(金)～4月8日(火)10:00～18:00
 (最終日は16:00まで)
 場所：こうべまちづくり会館 地下ギャラリー
 ◆コンサート(もとまちウキウキ～おとあそび～)
 日時：4月5日(土)13:00～16:00
 場所：神戸風月堂元町本店(地下ホール)
 ◆作業所製品ワゴンセール(ハートショップ)
 日時：4月5日(土)11:00～16:00
 場所：こうべまちづくり会館前・神戸風月堂元町本店前
 ◆東日本大震災復興支援・作業所製品バザール
 日時：4月5日(土)11:00～16:00
 場所：こうべまちづくり会館前
 ◆神戸ハンドメイドコレクション杜
 — 作業所新製品の展示 —
 日時：4月5日(土)11:00～16:00
 場所：神戸風月堂元町本店(地下ホール前)
 ◆人形劇とたのしい人形作り(劇団クラルテ)
 日時：4月6日(日)13:30～15:00
 (受付は13:00～)
 場所：こうべまちづくり会館(2階ホール)
 ※先着順、親子25組
 ※観劇には事前申込みが必要です。

お問い合わせ

「もとまちハートミュージアム2014」
 実行委員会事務局

神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
 (一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所)
 電話 (078) 252-8280/FAX (078) 252-8281

協同組合のかけ橋

JF 兵庫県漁協青壮年部連合会

大阪府漁青連・兵庫県漁青連 交流会 開催 ～関係者約 30 名が 集まり神戸で開催～



兵庫県漁協青壮年部連合会（大角生馬会長：JF 坊勢）と大阪府漁協青壮年漁業者連絡協議会（北村光弘会長：JF 大阪市）は水産業の持続的な発展の一助にすることを目的として、「平成25年度大阪府漁青連・兵庫県漁青連交流会」を1月10日（金）、神戸市内のホテルで開催しました。この取り組みは過去にも数回行われており、今回は漁青連関係者と行政担当者ら約30名が参加しました。

冒頭、両会長が挨拶を行い、大角会長は「同じ海で仕事をする仲間であり、これからもこの会を仲良く続けていきたい」と話されました。このあと、独立行政法人水産大学校 鷺尾 圭司理事長より「これからの水産の課題」と題した講演がありました。鷺尾理事長は、水産物流通の現状や消費者の嗜好傾向のほか、海的环境やTPP問題にも触れ「農業で使用される肥料に含まれる窒素の半分近くは地下水などを経て海へ流れ込み、プランクトンや海藻類の栄養となっている。近年の農業の衰退は海の衰弱に繋がっているのではないかと。TPP問題は農業だけでなく漁業にも大きな影響が出る」とされ、「沿岸漁業の存続は地域住民の後押しも必要」と締めくくられました。意見交換会では、農林業と漁業との有機的な繋がりについて話し合われたほか、「藻場の海藻の種類が変わり、海藻の量も減った」、「地元の魚をもっとPRしていくべき」といった意見のほか、アイゴやナルトビエイ、クラゲなどの未利用魚についても意見や情報を交わしました。

JA 兵庫中央会

より魅力的・効果的な 活動を目指して JA ぐらしの活動 担当者研修会を開催

JA 兵庫中央会は、昨年12月4日（水）・5日（木）協同学苑でJA ぐらしの活動担当者研修会を開催しました。同研修会は、JA ぐらしの活動の核となる担当者同士の情報交流および相互研さんを通じて、活動の企画力や情報の発信力を培うことを目的に開催したもので、5JA 22人が参加しました。

中央会よりJA 理念の実現と組織基盤の強化に向けたJA ぐらしの活動の重要性について説明した後、JA 兵庫西の宮野舞氏が、人・組織・地域の「絆」の強化という基本方針のもとに取り組んでいる多様な地域密着活動について紹介しました。次に相互研修として、グループに分かれ担当者が日頃抱えている思いや課題について情報交流を行いました。

最後に、NPO 法人男女共同参画おおた 坂田 静香理事長を招き、「人が集まる！活動の企画立案と広報資材のポイント」と題し、より多くの参加者を集めるための企画やチラシの作り方について実践研修を行いました。研修のまとめとして、坂田理事長より、最も大切なことは担当者自身の熱意と努力であるとの激励を受け、参加者はJA ぐらしの活動の一層の展開に向けた意識を高める機会となりました。



ポスターづくりのコツについて講義



最近の消費生活相談事例

高額な布団の訪問販売

事例

昼間一人で留守番をしている母が、高額な布団セットを購入していた。事業者は「以前購入した布団の点検」だと来訪し、今まで使っていた布団では健康を害するようなことを言い、新しい布団を置いていき、以前購入した布団は持ち帰った。解約することはできないか。

【アドバイス】

訪問販売で契約をした場合、規定された事項の記載のある書面を受け取ってから8日間は無条件で契約を解除し、支払った代金の返金を請求（クーリング・オフ）することができます。

勧誘の手口としては以下のような勧誘文句の事例がありますのでご注意ください。

- ・ 布団を無料で点検します。
- ・ 不要な布団を買取ります。
- ・ このアパートの住民皆様を訪問しています。

事例のように昼間一人で過ごしている高齢者や、社会経験の未熟な若者が勧誘されることも多く、事業者の巧みな言葉で家の中に上げてしまい、居座られて断り切れずに契約をしてしまいます。一度契約してしまうと、次々に勧誘され、さらに高額な契約を結ばされることもあります。まずは、不審な事業者を家の中に入れないことが大切です。

もし契約した場合でも、クーリング・オフ期間であれば理由を問わず、通知を書面で行うことで無条件解約ができますので、すぐにお近くの消費生活相談窓口にご相談してください。

また、クーリング・オフの期間を既に経過していても、販売方法などに問題があれば契約を解約できる場合がありますので、あきらめずに、お近くの消費生活相談窓口にご相談してください。

(兵庫県生活科学総合センター)

MOVE

2013年度『兵協連だより』通信員・広報担当者 研修会

日時：3月26日(水) 15時00分～17時00分 場所：兵庫県民会館 3階「304」

テーマ：「情報のわかりやすい伝え方」

講師：宇川 聡氏(読売新聞大阪本社広報宣伝部教育担当)

「文章」の書き方などに悩んだことはありませんか？実務に生かせるワーク中心の講義です。

対象者：会員生協『兵協連だより』通信員および広報担当者
20名(先着順) ※定員になり次第締め切ります。

一部内容が変更になる場合があります

お申し込み・お問い合わせ：兵庫県生活協同組合連合会(担当：中尾) TEL：078-391-8634

平成25年度 地方消費者グループ・フォーラム in 奈良 「広げよう連携の輪！つくろう消費者市民社会！」が開催されました

2月12日(水)、奈良県文化会館にて「地方消費者グループ・フォーラム in 奈良～広げよう連携の輪！つくろう消費者市民社会！～」が開催され170人が集い、今年度「消費者問題」について取り組む「生活問題研究会」メンバーも初めて参加しました。今年で4回目となるこのフォーラムは、地域で消費者問題に携わる消費者団体や行政が相互に情報交換を行うことで連携を深め、地域での活動につながることを目的に開催されています。18団体が参加した壁新聞交流会では、各団体・行政の活動内容の展示が行われ、神戸市市民参画推進局市民生活部消費生活課からは「2014神戸市消費者教育推進プラン」の紹介がありました。開会の挨拶では消費者庁 阿南 久 長官が消費者団体のさらなる活躍への思いを述べられ、続いて壁新聞交流会出展11団体による「壁新聞リレー紹介」では、活動報告や寸劇が行われ、生活協同組合コープこうべ組合員活動部 江見 淳 統括部長からは「ひょうご暮らしの親子塾」「ひょうご暮らしの大学」について、地域の活動リーダーの養成や、地域とともに子どもたちを育む取り組みなどが紹介されました。その後、「NPOと行政の連携」「事業者とともにすすめる消費者教育」「学生の消費者力アップ」の3つのテーマで分科会が行われ、生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合からは、兵庫県立大学 村上 りさ 氏が「学生の消費者力アップ～ひょうごの消費者市民社会を大学生が創造する取組み」と題して講演。消費者市民社会の実現に向けて大学生と社会人との連携を呼びかけ、参加者からも賛同の声が多く寄せられました。



壁新聞交流会で展示に見入る参加者

県連日誌

- 3月3日(月) ひょうご消費者セミナー (県民会館 パルテホール)
- 3月7日(金) 兵協連 第3回医療生協部会 (県民会館 ばら)
- 3月14日(金) 兵協連 ピースアクション委員会 (県民会館 302)
- 3月19日(水) 兵協連 第2回医療生協部会組織担当者会議 (県民会館 ばら)
- 3月25日(火) 兵協連 第6回生協活動委員会 (県民会館 ばら)
- 3月26日(水) 兵協連「兵協連だより」通信員・広報担当者研修会 (県民会館 304)
- 3月27日(木) 兵協連 第3回保健・医療・福祉研究会 (県民会館 301)

編集後記

日が長くなり、風もやわらかさを感じる季節になりました。この冬はお気に入りの「ふわモコ パジャマ」を手放せず過ごしましたが、週末にグスグスと風邪をひいてしまいました。でも(いつものように?) モリモリ食べて、モコモコ着込んで、グーグー寝て、しっかり復活!。ただし、いつのまにかウエストが行方不明になっている(?) ようなので、春の訪れとともに活動を始めたいと思います。(中尾)

